

## 故 名 誉 員 岩 崎 雄 治 氏 の 想 い 出

岩崎さんは去る昭和 37 年 9 月 28 日 忽然としてなくなられました。病名は糖尿病とのことですが、あの元気な岩崎さんが、そう急になられるとは信じられない気がいたします。岩崎さんは明治 22 年 11 月 3 日御郷里の熊本に生れられ、今年で 72 才になられるのですが、その輝しい土木技術者としての生涯はまことに数多い業績を残され、おしみでもなおあまりあるものがあります。

岩崎さんは大正 5 年九州帝国大学土木工学科を卒業されてより \*



た。岩崎さんのこの職歴からみてもわかりますように戦前の 20 年近い年月は地方土木行政に御尽力された次第で、計画の立案の適確さ、その着想の巧みさと、さらにその実行力の力強さは各府県で大きな土木事業を完遂されています。岩崎さんは砂利道の維持管理には非常に熱心で、独自の工法と熱情で舗装にも勝る立派な砂利道を維持されました。戦後は阪神上水道事業に専念され淀川から取水し縦来水源問題に不安のあった阪神間の上水道施設を強化整備された功績もまた大きかった次第であります。

土木学会では昭和 24, 25, 26, 27 年と常議員をつとめられ、関西支部では昭和 12, 13 年に商議員を、また昭和 24 年には関西支部長として学会運営のため、非常な御尽力をせられました。そして昭和 37 年には学会の名誉員に推選されておられます。

岩崎さんは身体強健で堂々たる体躯の持主で、晩年はゴルフを楽しんで健康には随分注意をはらわれていた様子でした。岩崎さんは釣がすきで現場を視察されての余暇を利用してよく糸を垂れておられたし、また句が好きで句集も発刊されています。岩崎さんを知る人はあのギョロリとした目だまを思い出されるでありましょう。あの目だまにらまれると部下はギクリとしたものでありますが、反面非常に部下のことを心配し、思いやりのある情味は誰しもが忘れられないものがあります。

岩崎さんにはいろいろの逸話や思い出話がありますが、終始仕事に熱心であったことは私等の最も敬服にたえないところであります。

ここに在りし日のその御温容を偲び、心から御冥福を祈り申しあげる次第であります。

\* 熊本、高知、茨木、岐阜の各県の土木課長を歴任され、昭和 8 年には長野県土木部長、昭和 10 年には京都府土木部長、昭和 15 年に兵庫県土木部長、昭和 17 年に北海道庁土木部長の要職をへて、昭和 20 年に官職を退官されました。

戦後は阪神上水道市町村組合の管理者に就任され、12 年の長期にわたって水道界に活躍されました。

その後朝日建設株式会社代表取締役任に就任され今日におよびまし